

くいちがう中共観

—日米京都会議—

第5回、日米貿易経済合同委員会は6月5日から3日間、京都各北の国立京都国際会館で行なわれました。この会談の焦点はアメリカが北ベトナムの聖域爆撃に踏み切った直後だけにベトナム対中共政策。

椎名外務×ラスク国務の個別会談でも対中共貿易拡大に伴う孤立化転換を計るとの日本の姿勢に、従来通り「封じ込め」を進めるとアメリカは批判的、対中共観に喰い違いをみせていました。

死の勤勞奉仕

—栃 木—

7月8日午後2時頃、栃木県黒磯町百村の農業用水トンネル内で集団ガス中毒事故が起り死者25名を出した。

台風4号で、こわれたトンネルの復旧を急ぎ「一日も早く水を」とあせった農民が地区ぐるみ手弁当の勤勞奉仕に出かけてこの災難にあったのだ。

新木ノ俣用水路は大正8年に作ったもの、幅1メートル弱、長さ700メートル、この中に60人もの人が入り作業をしていた。土砂くずれのため中は真っ暗、そのため照明用ポータブル発電機を中間の380メートル付近で使用。

この発電機の排気ガスによる一酸化炭素中毒になり事故を起した。

不注意な発電機の取扱いによる事故だったが「うちだけが共同作業に出なかったら、まわりの人にどんな目で見られるか……」といった水・水・水と地域共同体の義理にしばられた農村の宿命的な人間のつながりから起ったともいえる惨事だった。